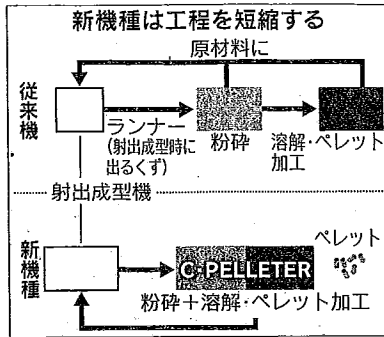


粉碎・ペレット加工 一体に

ホロン精工、導入費安く

プラスチック再利用機器製造のホロン精工(千曲市、山崎善彦社長)はプラスチックの加工工程で出る端材を粉碎、ペレット状に加工する一体機を開発した。従来はプラスチック端材の粉碎と、溶解・加工する個別の機械が必要だった。一体機のため設置スペースを削減できるほか、全体の導入費用も軽減できる。置き換え需要などを狙う。

端材プラの再利用機器



ホロン精工が開発した「C-PELLETER」(千曲市の本社工場)

プラスチックを射出成型機で加工する工程で、プラスチックくずの端材がは、金型に樹脂を流し込める。このくずは廃棄する。C-PELLETERは、金型に樹脂を流し込める。このくずは廃棄する。

コメ前払い金 1割上げ

J A全農長野 今年産、集荷増狙う

J A全農長野はコメ農家に支払う2012年産米の前払い金(概算金)を引き上げた。引き上げ幅はコシヒカリなどの主要銘柄で1割強。東日本大地震の影響で被災地以外での集荷競争が激しくなっている。前払い金の引き上げで集荷増を目指す。概算金は、農協が農家

コシヒカリは特A地区(飯山市、飯綱町などの一部地域)で60キロ1万4040円、その他のA地区で1万3200円、あきたこまちについては同1万2060円とした。前年からの引き上げ幅はそれぞれ1560円で、引き上げ率は12・14%となる。昨年は東日本震災によるコメ生産への影響や

分譲用地取得を拡大

上伊那や諏訪など中南信地域で土地取得を拡大し、「今年は少なくとも1億円を調達する無担保私募債を25日に発行し、1億円を調達する」と語った。

バクマ工業が樹脂資材増産 新潟・柏崎の新工場

12技能五輪 米穀の国

いざ本番②

左官職種には長野県内からただ一人、中沢大貴さん(21)が出場する。昨年まで仕事の傍ら通って腕を磨いた佐久高等職業訓練校

左官 中沢大貴さん(21)



左官職種で連覇を狙う中沢さん。後に周囲をきれいに塗る技の「体を動かしているの2日間かけ、石ごうの飾術を競う。規定の時間内で、壁に貼り付けた終わらない選手が続出する。思った」と家業の中沢左官(同)に入った。同じ仕事で中沢さんより若い人は「周囲にいない」。技能五

連覇・国際大会出場狙う

厳しい種目だ。昨年の挑戦で感覚を不足する中、同業者らが後つかんだ中沢さんは既に見た目の美しさなど完成度を高めることに照準を合わせる。高校卒業後、他目標は「いつか技術で父親の進路も考えた」と語った。

WHOの「安全・安心な街」小諸市、認証が内定

内目 県2カ所

小諸市が世界保健機関(WHO)による安全・安心な街づくりを進める。この制度は安心・安全を達成するため、地域ぐるみで予防策に取り組む。小諸市文化センターで、小諸市市民安全・安心フォーラムを開く。防犯や防災の専門家を招き、分科会形式で街づくりのあり方を探る。安全な社会のあり方を研究する「日本市民安全学会」と共催する。セーフティコミュニティ認証を目指す他の自治体関係者などにも参加を呼びかける。

「粉碎機と一体型はなかり、プラスチック原料と混ぜて再利用する。ただ、精度の高い製品の場合は粉碎した不ぞろいの形で再利用できず、溶解した上で大きさを一定のペレット状に加工する必要がある。この装置の製造会社は国内に3〜4社あるというが、価格は1台190万円程度になる見込み。従来型の粉碎機と再生ペレット造粒装置を別々に購入する場合に比べて、導入費用を2〜4割抑えられるという。また、一体型なら工場での設置面積も削減できる。パソコンの「コネクタ」部品など精度の高さが求められる部品が増えているのに加え、新規顧客の開拓も進め、10月に名古屋市中区で開かれる展示会に出展。代理店を通じて東南アジアにも販売網を広げたい考えだ。同社の2012年3月期の売上高は2億4000万円だった。